
第35回全国ホタル研究大会報告

研究大会の概要

全国ホタル研究会の第35回大会が5月31日～6月2日にかけて、全国ホタル研究会主催、美郷村共催、環境庁、徳島県の後援により徳島県美郷村で開催され、会員や地元のメンバーなど170名余が参加しました。また、美郷村をフィールドに活動されている嵯峨芸大（16名）、阪南大（2名）の学生さんがスタッフとして参加されました。

31日は14時より美郷ほたる館で受付が始まりました。受付をすませた皆さんは見学会が始まるまで思い思いに館内を見て回りました。日程説明の後、ホタル生息地であるほたる館の前を流れる川田川を歩いて見学し、その後バスに分かれて“高開の石積”を見学しました。山間の急峻地である美郷は段々畑や家を守る石積みが発達し、現在でも村内あちらこちらで石積みを見ることができますが、その中でも高開地区は最も美しい石積みが残されています。

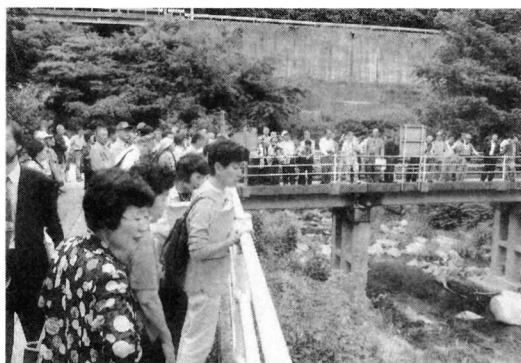
宿舎で夕方をすませ、20時にバスで美郷ほたる館に移動し、川田川に沿ってふるさとセンターまで歩きながらホタルを観賞しました。昨年より少ないとはいえ見事なホタルの乱舞を堪能することができました。

1日は9時30分より開会式が行われ、10時から伊井昇村長が「ホタルと私」と題して講演を行いました。伊井村長はご自身ゲンジボタルの調査・研究をさせていただきあって、体験にもとづいたとてもおもしろく興味ある話を語っていただきました。

研究発表は、草桶秀夫、荒井勝明、宇江城洋一各氏を座長に、午前中に4つ、午後に8つの発表が行われました。昨年と比べると地元の活動の発表や俳句を通して日本人のホタ



受付風景



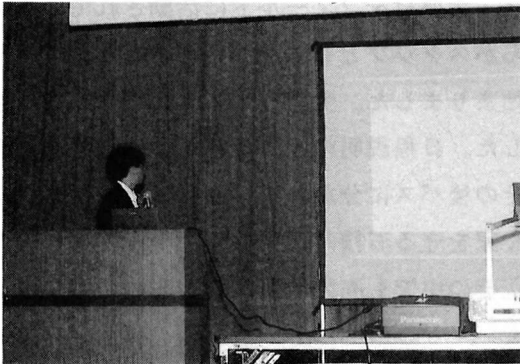
見学会（川田川の発生地）



見学会（高開の石積み）



伊井村長の講演



美郷での研究成果を発表する篠村さん



美郷から久米島へバトンタッチ

ルの意識をさぐった発表などバラエティーにとんだものとなりました。

研究発表の終了後、休憩をはさんで石田弘幸氏を議長に総会が開られました（総会議事録抄参照）。総会后、圓谷事務局長より閉会宣言が行われ、大会が終了しました。総会終了後短時間ですがほたるまつりを見学し、場所をヘルスランド美郷に移動して懇親会が行われ各々親睦を深めました。

会 場：徳島県美郷村 ふるさとセンター

大会日程：

7月6日（金）

- 14：00～15：00 受付（美郷ほたる館）、美郷ほたる館見学
- 15：30～18：00 見学会（川田川ホテル自然発生地、高開の石積み）
- 20：30～21：30 ホテル観賞（川田川）

7月7日(土)

- 9:30~10:00 開会式
10:00~10:30 講演「ホタルと私」伊井 昇(美郷村長)
10:30~15:30 研究発表
15:45~17:00 第35回総会
18:00~20:00 懇親会(ヘルスセンター美郷)

研究発表:

- 美郷ほたる館を核とした活動 竹前晴夫
美郷村における河川水質とホタルの生息分布について 篠村善徳
岩打谷(新潟県三島郡越路町)における地域と行政による
 ホタル保護のための環境調査 中野雅子(新潟県ホタルの会)
ホタルダスの新しい展開“ホタル寺子屋” 荒井 紀子(水と文化研究会)
ホタルに関する俳句の時代変遷 遊磨正秀
ゲンジボタルの外部形態と発光パターンの地理的変異 大場信義
行動生態学から見たゲンジボタル成虫の雌雄サイズの違いについて 井口 豊
静岡県富士宮市・芝川町におけるゲンジボタル同時明滅周期の調査結果 渡辺 努
ヘイケボタルの蜂蜜摂取の影響 山岡 誠
ヒメボタル成虫発生状況と気温・降水量との関係 三矢和夫
長野県内のヒメボタルの発生地について 三石暉弥
愛媛県面河村のホタル 後藤好正

大会開催地より

第35回ホタル研究大会美郷大会を終えて

美郷村長 伊井 昇

美郷村役場職員一同

全国ホタル研究会会員の皆様には、遠路、北は北海道、南は沖縄より徳島県美郷村へご参集いただき、ありがとうございました。私どもスタッフの不慣れにより、充分なお世話もできず、多々ご迷惑をおかけしたことに深く感謝を申し上げますと共に、厚くお礼申し上げます。

今回の大会は、150名余りの会員が参加され、熱心に現地視察や研究発表をいただき、研究発表では各地域での熱心な取り組みや専門的な研究に感激いたしました。

また、ホタル観賞では、昨年比べてホタルの数が少なかったので心配していましたが、天候にも恵まれ、ホタルも会員の皆様を歓迎するかのように多く飛び交い安心しました。

美郷村は、平成16年10月に郡内3町と合併して、人口46,000人余りの吉野川市が誕生する予定ですが、国天然記念物に指定されているホタルが生息する特別な地域としての位置づけを確立し、美郷ほたる館を拠点に、行政や地域住民が環境保護やホタル保護に取り組み、全国へ発信し、交流を深めたいと考えていますので、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、この大会招致にご尽力いただきました遊磨先生を始め、関係者の皆様にお礼を申し上げますと共に、全国ホタル研究会のさらなる発展と、会員皆様の活躍とご健勝を祈念してお礼の言葉といたします。

美郷との出会い、

そして全国ホテル研究大会（美郷大会）に参加して

篠村善徳

私は5月31日～6月2日に開催された全国ホテル研究会にはじめて参加した。研究発表では、地元発表「美郷村における河川の水質とホテルの生息環境について」という題目で調査の成果を発表し、またスタッフとして運営側のお手伝いをさせていただいた。はじめに、すばらしい本大会を開催していただいた全国ホテル研究会事務局の皆様、伊井村長をはじめとする美郷村役場のスタッフの皆様には感謝を申し上げます。

さて、東京に住む学生の私が美郷村で調査をし、そして全国ホテル研究会で地元発表をする機会を得たのは、美郷村との偶然な出会いがあったからである。

2001年の夏、私の所属する大学の研究室で研究発表会が開かれた。その時、生物と水質との関係について興味を持っていた私は、千葉県で調査されたミヤコタナゴとその生息環境についての発表に関心をもって聞いていた。発表の後、ミヤコタナゴの生息と水路の水質とが本当に関係があるのかどうかを調べてみたいと思い、発表者に掛け合った。しかし、結果は意外にもノー。保護区で関係者以外の調査は難しいとのことだった。

ところが、後日、私の思いが通じたのか、その発表者から「徳島県的美郷という村にホテルのいる川とホテルがない川がある。その違いを明らかにするために水質を調べてみないか？」と誘われたのだ。私はその場でOKをし、それが美郷との出会いのきっかけとなった。

以来、秋と春の2度、水質調査に美郷を訪れた。ほたる館に滞在しながら村内の河川の源流から下流まで調査をした。調査は自然の力と体力との根比べであったが、美郷での滞在とても楽しいものだった。なぜなら、村の皆さんが私を支えてくださったからである。美郷ほたる館の佐藤館長や役場の竹前課長は、いつも快く調査を手伝ってくださり、生活面でも気を遣ってくださった。また、食事を出してくださる定食屋さんでは、毎晩、村の人たちと一緒に酒を飲み、村のいろんな話をしてくださった。滞在最後の晩には送別会といって、イノシシの肉を出してくださった。あの美味は忘れない。新参者にも関わらず、村長さんをはじめ、村の皆さんから「がんばれー！」と応援をいただのには、本当に心温まる思いであった。

そんな応援に十分に答えられたとはいえないかもしれないが、美郷村で全国ホテル研究大会という大きな大会が開かれ、偶然にもそこで調査の成果を発表する機会を得ることができたのは、大変光栄であったと思う。また、全国から集まったホテル研究者の皆さんの研究成果を直接聴くことができ、私の発表に対する様々な御意見もいただくことができた。大変勉強になった。そして夜、はじめて川一面に神々しく輝くホテルを見たときには、心

底から感動がわきあがった。こんな美しいホタルを、全国のホタル研究者の皆さんと、第一級の解説付きで見られることに喜びを感じた。それとともに、こんな美しいホタルが飛び交う場所で調査できることに誇りを感じた。

大学の発表会でのふとした思いから、出会いに結びついた美郷村であるが、村の多くの方に温かく迎えられ、そして全国ホタル研究大会の場で多くの研究者の方と交流をもてたことを幸せに思う。今後も長くこの美郷村とつきあいたい。皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

* 東京大学大学院環境学専攻

新刊書の紹介

□ ほーほーホタル来い

三石暉弥著，川辺書林，2002年6月発行，1,600+税

※三石さんの3冊目のホタルの本は、わらべ唄の“螢狩りの唄”について書かれたものである。前2著もそうだが、本書も長野県という地域性を特徴としている。長野県に伝承されていた唄を、歌詞を分類して分布を示し、地域性を考察をしている。巻末に「ホタル雑学」として資料が掲載されている。

□ 螢 light of a firefly

小原 玲著，ワニブックス，2002年7月発行，3,333+税

※ゲンジボタルの乱舞を中心とした写真集。哲多町の金蛍（ヒメボタル）やヘイケボタルの乱舞，ゲンジボタル幼虫の上陸の写真などもある。